

R3「3つの提言」推進拠点校の取組 及び 成果と課題① (別府市立朝日中学校)

重点的取組 【提言2】

学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築

<学力向上に向けて重点的取組に上げた理由>

「【提言3】生徒と共に創る授業」の取組をすすめているが、なかなかうまくいっていない。「【提言1】新大分スタンダード」の徹底についても教師の自己評価結果から100%に達していない。そのため、教科部会の取組をさらに強化し、教員の教科指導力を向上することで、「提言1」「提言3」の取組につなげていきたいと考え、「提言2」を重点的取組として取り上げた。

取組の具体

成果と課題

②教科部会の取組について

- 教科部会を日課表に位置付け、毎週実施
- 研修部より議題を提案

- ・授業者が毎月「単元のめあて」「単元のねらい」「本時のめあて」「本時の課題」「本時のまとめ」「本時の振り返り」を作成し教科部会で検討
- ・1人1実践授業の指導案審議
- ・テスト問題やワークシートの検討
- ・定期考査や学力調査の分析

○成果(効果的な点)

- ・定期的、意識的、効果的な他の教職員との意見交換ができる。
- ・授業やテストの作成・分析などについて、他教師から助言や指導を受けることができる。

○課題

- ・日課表変更時や出張時に集まらない
- ※教科部会の実施率 1学期 66.7%
2学期 73.5%

○単元計画の作成

学年(3年)	授業者	実施時期	単元・単元名	単元のねらい	単元のめあて	学年(3年)				別紙4-②	
						互見授業実施日	本時のねらい	本時のめあて	本時の課題		本時のまとめ
1	坂本	9月上旬(4時間)	3年・音楽とともに(俳句を味わう・和語・漢語・外来語)	表現を楽しむ、言葉の世界の奥深さを知る	俳句に触れるもの見方や感じ方を豊かにするとともに、言葉の遊び方を知り、伝わる表現しよう	9月24日	人物関係の変化を捉える	変わったものと変わらないものはそれぞれ何かを考えよう	なぜ変わったのか、変わらなかったのか	状況は人物関係を変えることがあるが、心の中の思いは変わらずに残る。	デジタル教科書で人物関係を確認する
2	角野	9月・10月	3年・個人の尊重と日本国憲法	個人の尊重と法の支配などに着目して、対話的な活動を通じ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について、考察、表現する。	日本国憲法が保障する権利との関わりについて考えよう。	9月22日24日	情報化の進展に伴ってどのような課題が生まれどのような権利が認められてきたのか、表現する。	情報化の課題と人権について考えよう。	インターネットの発達による人権上の利点と課題は何だろうか。	(インターネットの発達は)知る権利の保障につながる一方で、個人情報の流出などプライバシーの権利がおよびやられることがある。	授業で考えたこと・思ったことを記入
3	種崎	9月	3年・バレーボール	基本的なボール操作を身に付け、相手コートに空いた場所を狙った攻撃をすることができる	役割に応じたボール操作をして、空いた場所をめぐる攻撃ができるようになる	9月22日4時間目	前衛・後衛の役割を理解し、攻撃することができる	役割に応じたプレイをしよう	どうすれば三段攻撃ができるだろうか	後衛がレシーブし、トスを上げ、前衛がスパイクを打つ	それぞれが自分の役割を理解し、果たそうとする
4	林田	9月	3年・ソフトボール	自分たちが身に着けた技能を活かした作戦を考え、仲間と連携した動きで試合を展開することができる	作戦に応じたボール操作やバント操作を身に付け、仲間と連携した動きで試合ができるようになる	9月22日4時間目	フリーバッティングに積極的に取り組む中で、強打やバントなどの打ち方を練習することができる。	フリーバッティングに積極的に取り組むことができる。	自分の得意な打ち方やボールの場所を見つけよう	強打やバント、高めや低めなど、得意な技術を活かす	技術を上達させるために積極的に練習する

○日課表に教科部会を位置付け

	月	火	水	木	金
1	理科・数学				
2			英語		
3		保体			国語
4			社会		
5					
6					

その他の取組 【提言1】

学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底

取組の具体

①授業改善の取組について

- 見通しをもって学びに向かい、学びの成果を実感させる授業の推進
 - ・単元を貫く「単元のめあて」の設定と提示
 - ・板書の構造化
 - ・1時間完結型の授業実践と、授業展開における「め・か・ま・ふ」の明確化
 - ・教師の自己評価(PDCA)を毎月実施
- 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な授業展開の推進
 - ・単元全体を見通して問題解決学習を位置付ける

③互見授業・授業研究の取組について

- 互見授業週間(年5回)・1人1授業実践・全体授業研究会(2回のうち1回は自主公開研究発表会[11月22日])

成果と課題

教師の自己評価より

- ・「新大分スタンダードを意識して授業を行っている」
1学期平均(83.3%) 2学期平均(84.6%)
- ・「単元に1回以上問題解決的な授業を実施するため、単元計画を作成している」
1学期平均(77.3%) 2学期平均(79.3%)
- ・「互見授業週間に1回は授業を見に行っている」
1学期平均(63%) 2学期平均(84%)

成果と課題

- ・どの項目も100%にはなっていないが、右肩上がりになってきた。9月から授業の前月に単元計画を作成することで、計画的に問題解決的な授業が行えるようになってきた。

その他の取組 【提言3】

「生徒と共に創る授業」の推進

取組の具体

①生徒による授業評価の取組について

- ・生徒学習意識アンケート(①学習規律に関する内容②授業に対する意識や態度③各教科の授業に対するわかりやすさ)を年5回行った。
- ・アンケート結果をレーダーチャートにして教室掲示した。

②学習目標の取組について

- ・各学級で毎月「学習目標」を設定し、指導者と生徒で共有した上で検証・改善を行った。
- ・学習目標を教室の前面に掲示した。

③学びに向かう学習集団づくりの取組について

- ・生徒会2つの柱「高みを目指して成長しよう」「新たな学びを広げよう」を達成するために、各専門委員会の活動を特別活動として年間計画に位置付けた。(「家庭学習ビンゴ」など)

成果と課題

成果と課題

- ・昨年に比べると、授業の内容に迫るものが増えてきた。まだまだ授業規律的なものもあるが、授業改善が進み、生徒の方からこんな授業をしていきたいという思いが膨らむことで、授業の内容に迫るものへと変容していくことをねらっていきたい。
- ・指導者と生徒との学習目標の共有については、学習委員による授業の始業時の確認や授業後の振り返りをするようにしていたが、毎時間は難しいとの意見もあり、帰りの会での振り返りなど今後試行錯誤を続け、方法を確立していく必要がある。